

世界遺産 国宝 姫路城
冬の特別公開



姫路城
世界遺産登録
30周年記念

ひしのもん

菱の門・2階櫓部 特別公開

初公開

菱の門は入城口からすぐの位置にあり、黒漆と飾金具の格子窓に飾られた勇壮な姿が入城者に鮮烈な印象を与えます。国指定の重要文化財であり、姫路城内に現存する城門のうち最大の門です。今回はこの菱の門内部にある2階櫓を初公開します。重要な防衛の拠点であった櫓の内部構造をご覧ください。

令和5年(2023年) 2月11日(土)~3月12日(日)

時間 / 9:00~16:30 公開場所 / 菱の門・2階櫓部

観覧料200円 ※別途姫路城の入城料が必要です

菱の門 (1階馬見所を除く)

重要文化財 櫓門 2階櫓部は【初公開】

姫路城に現存する最大の城門。冠木に飾られた木製の花菱が門名の由来。

黒漆、飾金具付きの格子窓と火灯窓など、桃山時代の優美で豪華な雰囲気を醸し出している。

2階櫓内で収蔵品を展示

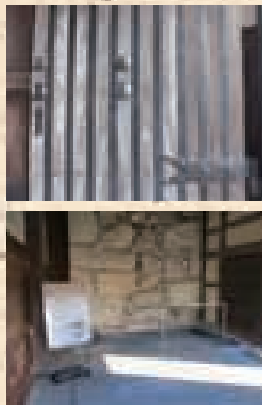
- ・黒漆塗長持【初公開】 くろうるしぬりながもち 平蒔絵の葵紋が描かれている長持 ひらまきえ
- ・硯【初公開】 かわいすんのう 姫路城主酒井家家老河合寸翁が愛用した硯



菱の門

入城口

菱の門・2階櫓部 特別公開



菱 の門は平城と平山城の境界の間の谷部を押さえる位置にあります。築城当初の城主の屋敷は備前丸にあり、屋敷へはこの谷部から登りますので、大手門に比肩する大事な城門だったといえるでしょう。「門番所」は大きな門扉の横に付く脇門に面していて、門の出入りを監視しました。

また「門番所」内南側の壁は石垣になっており、西の丸東辺石垣の北端に当たります。その石垣が門の建物に組み込まれているというところは、

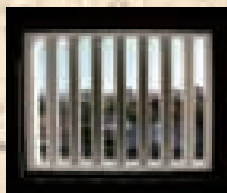
菱の門と「門番所」

本多忠政が西の丸を造成したときに菱の門も現在のかたちになったとみることができます。

菱の門二階

菱 の門の2階は櫓になっていました。内部には、門を入って西側の雁木を登り、西側の火窓の横にある入口から入ります。入口は城外からは土塀で隠れて見えません。

櫓内部は東室・中室・西室の3室に分かれます。主要な城門であったため室内には武器が保管されていたとみられます。西室と中室では床面の南端（通路の真上）に石落し用の蓋が切られていて、1階の門を通る者に対して頭上から攻撃できる仕掛けとなっています。この石落しは外から見ても存在に気づかないので、「隠し石落し」とも呼ばれます。

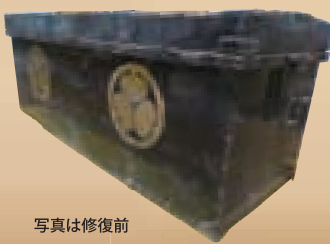


2階櫓内にて初公開



河合寸翁が愛用した硯 (元鼎硯) 姫路市所蔵

河合寸翁 かわいすんおう みちおみ 姫路城主酒井家老の河合寸翁 (道臣) が愛用した硯です。この硯には黒漆塗り硯箱のほかに、2つの桐箱で二重に梱包されています。墨堂 ぼくどう (墨を磨るところ) はかなり摩耗しており、多くの文書が書かれたことが想像できます。

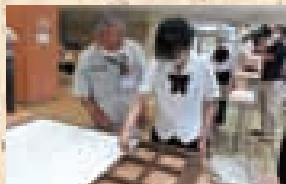


写真は修復前

黒漆塗長持

(くろうるしぬりながもち)

菱の門の櫓部の東室に置かれていた長持。全体を黒漆塗りとし、長辺には直径30cmほどの大きさで、平蒔絵の葵紋が2つずつ描かれています。酒井家の資料を収納、保管していました。



菱 の門の障子に使用している紙は、姫路市民の手ですいたものです。材料として使用した雁皮 (がんび) は、市内にある書写山で採取。現代の名工・表具師梅岡一晴氏の指導の下、高校生の皆さんで張りました。見学の際は、障子にもぜひご注目ください。

姫路城便覧

姫路城の情報をリアルタイムにお届けしています。姫路城への旅行計画にどうぞご活用ください。

ホームページ

<https://www.himejicastle.jp/>



【ご利用案内】 観覧料 大人・小人 200円 ※別途下記姫路城入城料が必要です

	区分	個人料金 (30人未満)	団体料金 (30人以上)	備考
入城料	大人	1,000円	800円	18歳以上の方
	小人	300円	240円	小学生・中学生・高校生

開城時間 / 9:00~17:00 ※最終入城 16:00

※小学校就学前は、無料です
 ※18歳で高校生の場合は、小人料金が適用となります
 ※小学校・中学校・高校の教育旅行については、生徒15人につき引率教師1人は無料となります
 ※姫路城・好古園共通券 大人 / 1,050円 小人 / 360円